

PRESS DESIGN

editor's manual

押さえて流す

ニュース面の典型的な出稿メニューの例

	本文	前文	見出し	写真	行数見当
A	70	15	4段	縦3段	177行
B	30		3段		48
C	50		2段	横2段	98
D	15		1段		18
E	15		1段		18
F	15		1段		18
G	15		1段		18
H	15		1段		18
I	15		1段		18

* D~Iの一部または全部を囲みとする

* 見出し行数、写真行数、絵解きと前文のスペースや形は一定の範囲内で自在に調整できるものとする

見出しの行数計算方法

「8本10本」の2行チドリ見出しを前提にして考えると便利です。

n 段×2——または $(n$ 段×2)−1と、覚えておきます。2行以外のばあいは、適宜、増減があります。

活版時代は、 $(n$ 段×2)+1——でした。新聞の基本文字サイズ拡大の流れの中で、見出しスペースは若干縮小したほうが決まって見える、というふうに変化しています。「プラス1」は、いまや不要です。

上掲のような内容を1段13字52行9段の紙面に実際にレイアウトしてみます。

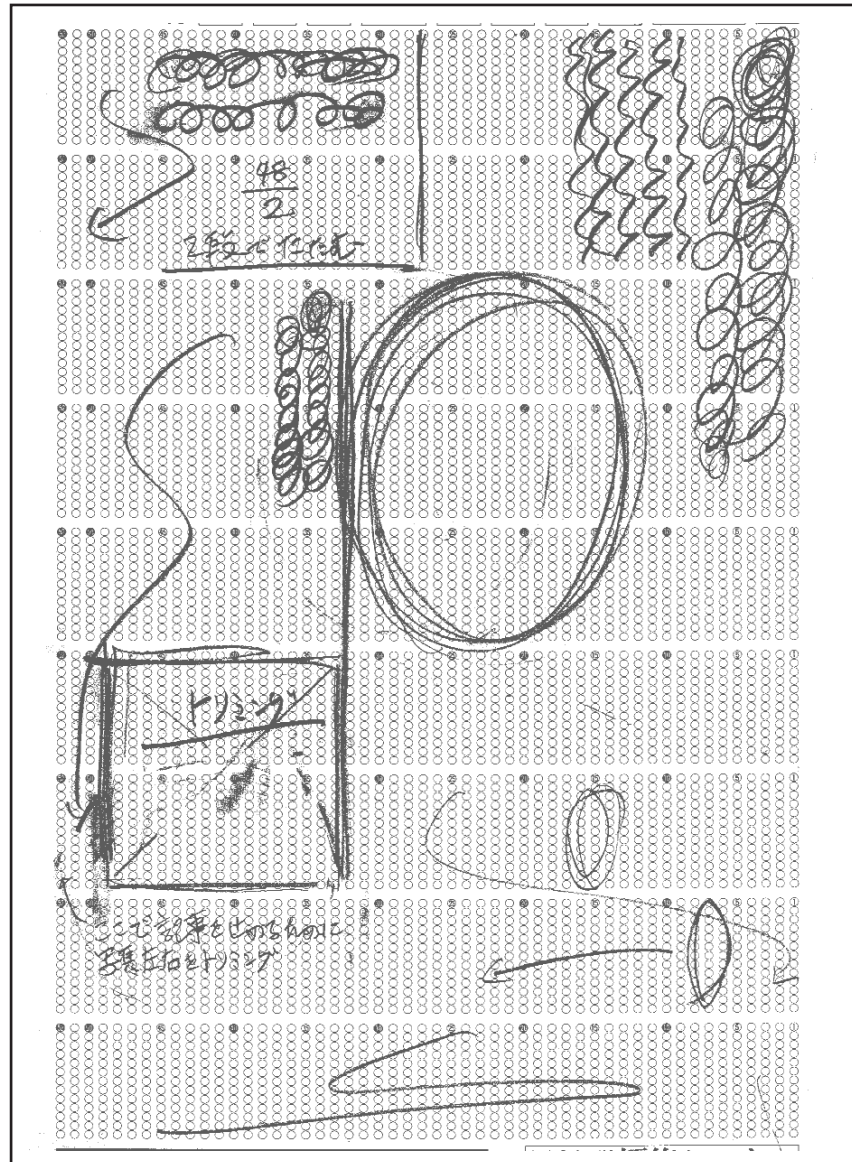
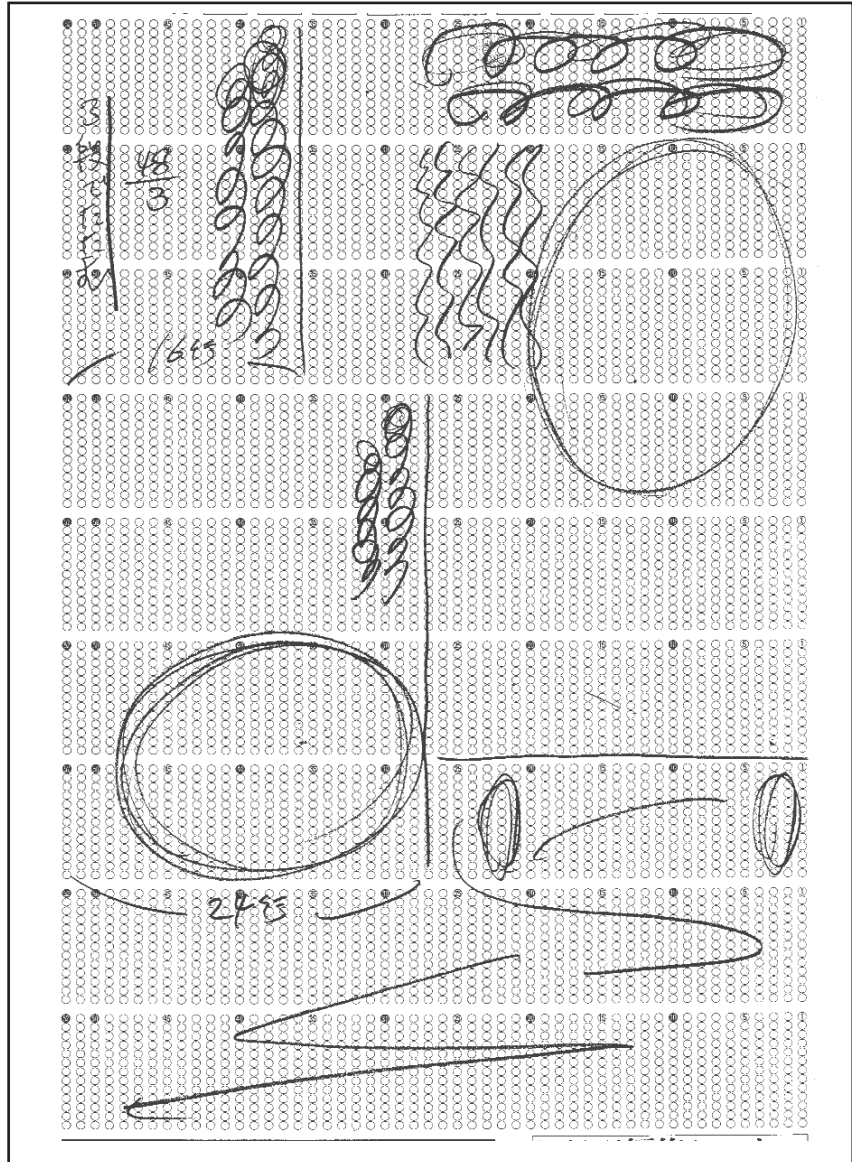
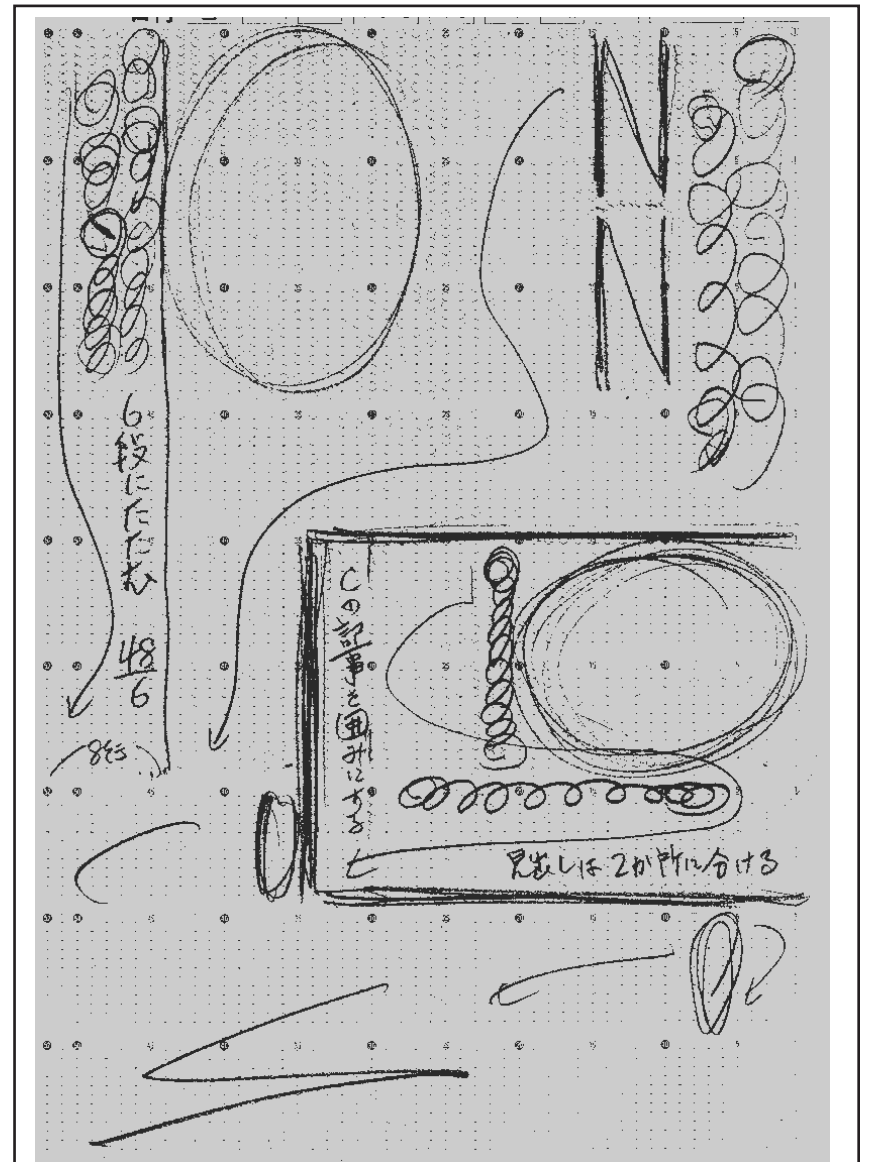
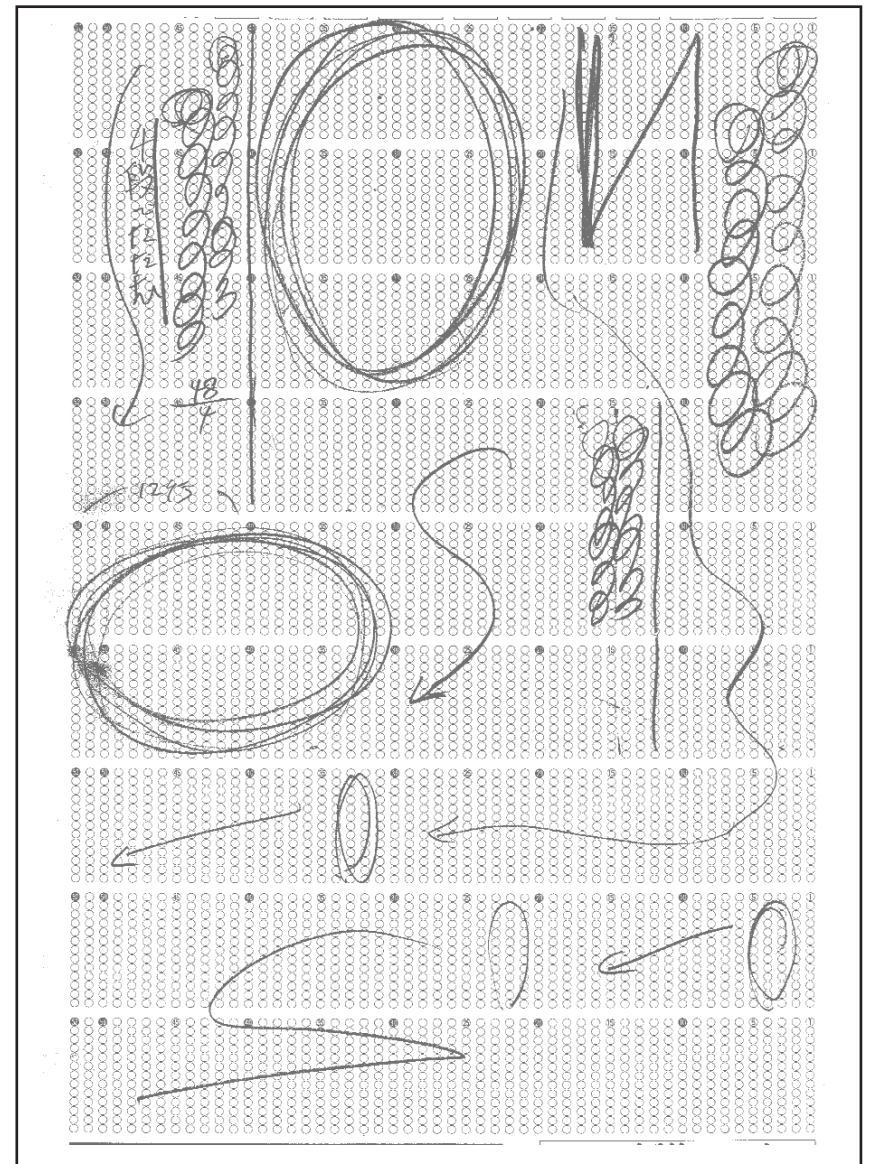
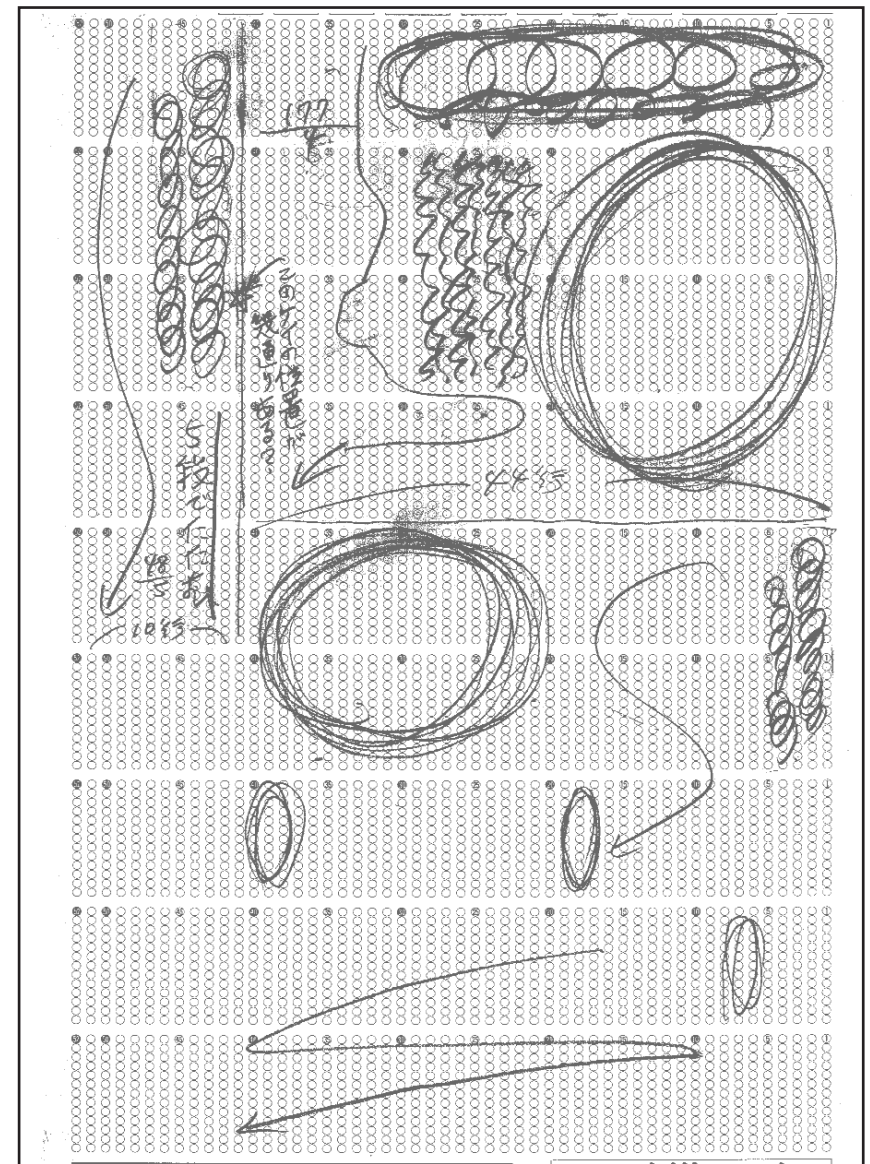
トップ記事があり、サブがあり、3番手記事があり、ベタ記事がいくつかある、という典型的なニュース面の紙面がイメージできるでしょうか。

「押さえ」を、6段、5段、4段、3段、2段……と作り替えてみたラフレイアウトの例です。

トップには、4段見出し、3段写真という「制約」があるのです。紙面上、トップらしく見せるためには、もっとも大きな「文字」「画像」が、インパクトをもって配置されねばなりません。見出しと写真を大きく作ることが「コツ」になります。

トップ記事には前文と写真があり、サブ記事は本文のみ、3番手記事は前文がなく写真がある。ベタ記事は、だいたい15行前後で、いくらでも融通をつけられるもの、と想定しています。

「押さえて流す」のですから、まずは、サブや3番手記事を左に「たたむ」ことを考えますが、トップとの兼ね合いが大事です。トップとサブの関係が、何通りくらい考えられるでしょうか。



実践／ニュース面レイアウト「押さえて流す」編。